

★ 目次 ★

1. あいさつ
2. セッション及び講演案内
3. 「なぜ」と問うことの中で(105)  
—小売価格(東京都区部)シリーズ—第25回「いちご」 岡部 進
4. 世界の気になる情報と数値—読書とネットサーフィンから(70)  
【予告のテーマ：世界は今後どうなっていくのだろう？(48)】 田村 一郎
5. イスラエルの旅(2) 黒沢 宥
6. 著書及び新刊本紹介
7. 今日のワンポイント…「キュビズム(cubism)とは」 岡部 進
8. 編集後記

※最下段に、12月26日【第150回生活数学セッション<特別企画>】  
『生活数学・岡部進の米寿(88歳)を寿(ことほぐ)』参加申込み欄あり

1. あいさつ ★

師走の初日を迎え、今年も残り1か月になりました。コロナ禍の不安がつ  
のる長いトンネルを通りすぎて漸く明るい日差しが差し込んでくるような  
日々になりました。しかし日本経済が円安とインフレのダブルピンチを受け  
ているせいか、冴えない生活を余儀なくされていることでしょう。これも我  
慢でしょうが、今や介護・医療や学校そして文化までも巻き込んで投資対象  
にしてしまうと明日の活力を培う泉も枯れてしまうのかもしれない。

投資だ、投資だの掛け声に惑わされない日々が望まれるのかもしれませ  
ん。  
(12月1日：生活数学ネットワーク代表 岡部進)

2. セッション及び講演案内 ★

◎今月セッション12月26日(第4火)は、【第150回生活数学セッション  
<特別企画>】として、【生活数学・岡部進の米寿(88歳)を寿(ことほぐ)】  
を開催します。

◆日時：2023年12月26日(火) 13:00~15:30  
(12:30 受付開始)

◆会場：会場：グランドアーク半蔵門 2階 曙の間

◆食事：和洋折衷(昼食)コース料理

◆会費：一人8000円

(振込みにご協力下さい。申し込み後、振込先を案内状と共にお知らせ致します)

◆最下段に案内及び申込記入欄があります。

◎先月セッションのテーマは、ベトナムの輸入数量及び金額そして品目の、4回目で、コーヒーでした。至る所コーヒー専門店やカフェありの昨今、コーヒーはすっかり日本に根付いたかのようですが、では、そのコーヒーは自国内で賄いきれているのか、輸入コーヒーなのか。参加者にとって興味深いテーマだったようでした。

### 3. 「なぜ」と問うことの中で(105) ★—————

【小売価格(東京都区部)シリーズ—第25回いちご】岡部進(元日本大学教授)

#### 1 いちご栽培に現代化の波

店先に並んでいるパック詰めの一いちご(以下イチゴ)を眺めると、

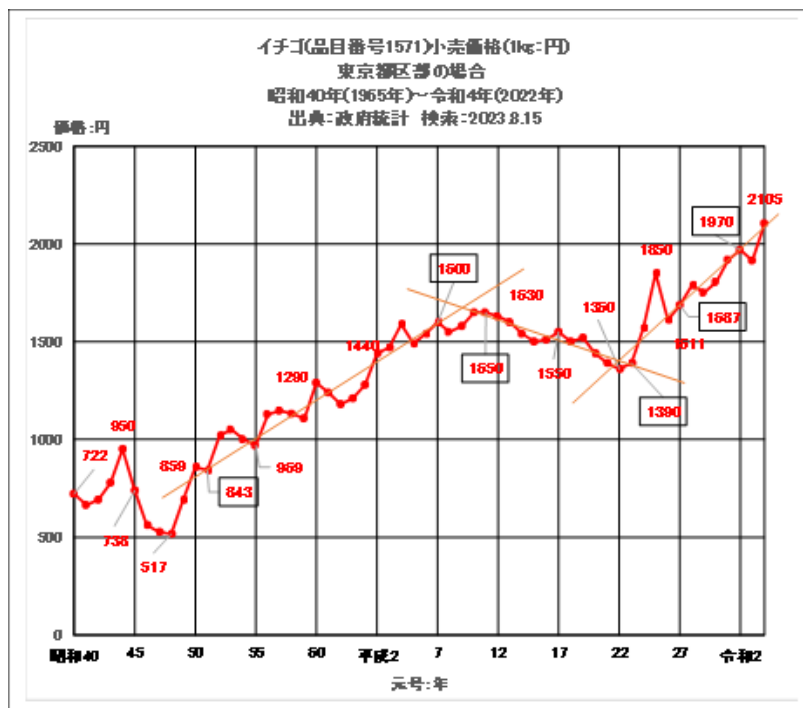
- ・泥がくっついていなく清潔感がある
- ・カタチや大きさが揃っている
- ・表面が艶のある赤色
- ・採りたての新鮮さ

等が感じられ、「綺麗ないちご、甘いのもかもしれない」とすぐに食べたくなるような衝動に駆られるのかもしれませんが。これほどに味覚を誘うイチゴ栽培は路地からビニールハウスへそしてコンクリート室内へと栽培方式が根本から変わってパソコン操作で生育環境を管理する\*)までになっている。

\* ) 例えば、平成23年(2011年)稼働の日清ホールディングスの植物工場  
この生育栽培が様変わりをしているイチゴの小売価格はいまどのように変わってきているのでしょうか。過去に遡ってその推移を見ていきましょう。

#### 2 イチゴの小売価格年次別推移

イチゴ栽培の歴史は長いけれども、イチゴが商品として販売され人々が店頭で本格的に購入するようになるのは昭和40年代(1965年)になる頃なのかもしれません。というのも、イチゴの小売価格の年次別データの政府統計は昭和40年(1965年)以降なのです。図1は東京都区部のデータです。



## 図1 筆者作成

### (1) イチゴ小売価格(東京都区部)の特徴

図1の折れ線のカタチから、イチゴの小売価格(東京都区部)の特徴は次のようです。

- ①最大値 2105 円(令和 4 年(2022 年))
- ②最小値 517 円(昭和 48 年(1973 年))
- ③昭和 40 年(1965 年)からの 10 年間は、前半の 5 年は急上昇(722 円→950 円) 後半の 5 年は急下降(950 円→517 円)のごとく不安定
- ④昭和 49 年(1974 年)を超えて平成 7 年(1995 年)は細かい上昇下降があるが上昇傾向
- ⑤平成 7 年(1995 年)を超えて平成 22 年(2010 年)まで細かい上昇下降であるが下降傾向
- ⑥平成 22 年(2010 年)を超えて令和 4 年(2022 年)までは平成 25 年(2013 年)を除いて上昇傾向

この①~⑥の特徴から、④⑤⑥はのちに詳しく扱うとして、①②に目を向けると、過去 40 年弱で最大値が最小値の 4 倍になっていることは、当時の日本の高度成長の追い風がるとしても、イチゴの商品価値が急速に高まっていることを意味しているでしょう。また③では昭和 40 年代の小売価格が急上昇と急下降していることは、この時期では小売価格が不安定であるということの表れでいちごの商品価値が固定していないのでしょう。

### (2) 上昇傾向と下降傾向の数値表現

上昇傾向や下降傾向を数値表現にするには図1の量対応画面を x-y 座標平面に代えます。この為に次の㊦㊧の作業をします。

- ㊦横軸を x 軸とし、昭和 40 年を数 1、年単位を数 1 とする
  - ㊧縦軸を y 軸とし、0 円を数 0、円単位を数 1 とする
- ①昭和 49 年(1974 年)を超えて平成 7 年(1995 年)までの上昇傾向の場合

この期間の折れ線に近似する直線は昭和 51 年(点 A)と平成 7 年(点 B)を通る直線が最適でしょう。

したがって、x-y 座標平面上では A(12, 843)、B(31, 1600)となり、直線 AB の傾き  $m_1$  は次のようになるでしょう。

$$m_1 = \frac{1600 - 843}{31 - 12} = 39.84 \dots$$

すなわち、当該期間では毎年 40 円弱の値上げをしているのです。この値上げ現象は、すごい値上げというよりも、イチゴの商品価値が向上している表れでもあるのかもしれませんが。

### ②平成 7 年(1995 年)を超えて平成 22 年(2010 年)までの下降傾向の場合

この期間の折れ線に近似する直線は平成 11 年(点 C)と平成 23 年(点 D)を通る直線が最適でしょう。

したがって、x-y 座標平面上では C(35, 1650)、D(47, 1390)ですから、直線 CD の傾き  $m_2$  は次のようになるでしょう。

$$m_2 = \frac{1390 - 1650}{47 - 35} = -21.66 \dots$$

すなわち、当該期間では毎年 22 円弱の値下げをしていることになるでしょう。

う。この時期は日本経済のバブル崩壊の真っ最中ですから、この影響を受けているのかもしれませんが。

③平成 22 年(2010 年)を超えて令和 4 年(2022 年)までの上昇傾向の場合

この期間の折れ線に近似する直線は平成 27 年(点 E)と令和 2 年(点 F)を通る直線が最適でしょう。

したがって、x-y 座標平面上では E (51, 1687)、F (56, 1970)ですから、直線 E F の傾き  $m_3$  は次のようになるでしょう。

$$m_3 = \frac{1970 - 1687}{56 - 51} = 56.6$$

すなわち、当該期間では毎年 57 円弱の値上げをしていることになるでしょう。この値上げは、いちご栽培の現代化がたらした質の向上でしょう。

(3) 傾きは度数表現ではなく比率表現

これらの三つの近似直線の傾きの数値を見ると傾きの絶対値の大きさの順は 57、40、22 ですが、傾斜角度は、 $89^\circ$ 、 $88^\circ$ 、 $87^\circ$  になります\*)。

\*)  $\tan^{-1}57=89^\circ$ 、 $\tan^{-1}40=88^\circ$ 、 $\tan^{-1}22=87^\circ$

例えば、水平に数 1 だけ進むみ、数 57 だけ高くなるということは  $89^\circ$  の傾斜角度になるという事に他なりません。したがって、傾きの数値の差異は角度ではわかりにくいでしょう。こうしたことから、傾きは角度で表すのを避けて比率数値で表すのがよいでしょう。

### 3 イチゴとスイカの小売価格比較

すでに前回にスイカの小売価格の年次別推移について扱いましたので、同じ野菜果物の類として両者の小売価格の年次別推移を比較してみましょう。これは図 2 です。

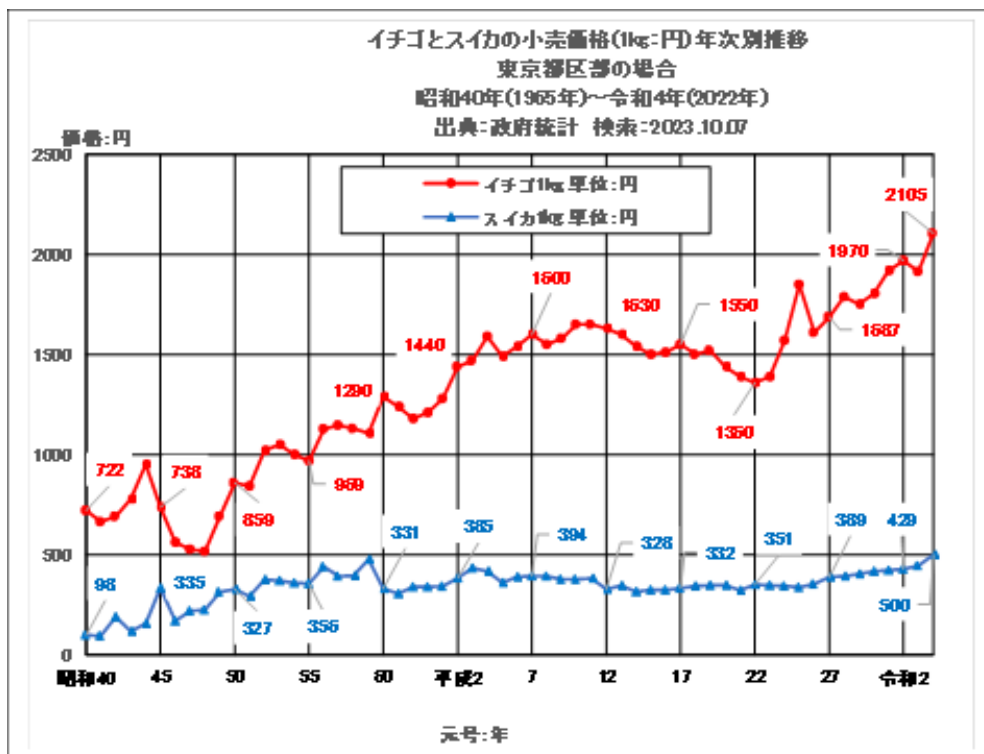


図 2 筆者作成

図 2 からイチゴの折れ線とスイカの折れ線とには小売価格で差異が目立ちま

す。そこで5年毎に比率（イチゴ÷スイカ）を計算すると表1の5列目になるでしょう。

表1の5列から、イチゴの小売価格は、スイカに比べて次のような倍率になるでしょう。

- ・昭和40年は7.34倍
- ・昭和45年以降から昭和55年までは2倍台
- ・昭和60年以降から平成2年までは3倍台
- ・平成7年以降から令和4年まで4倍台

但し、平成22年のみ3倍台

このようにイチゴとスイカの小売価格を比較するとイチゴは2~5倍であっても直近では4~5倍になっているのは、イチゴ人気が高まっている表れなのでしょうか。

ここで改めて図2のイチゴとスイカの折れ線のカタチに目を向けてみましょう。カタチに類似性があるのかもしれませんが。そこで図3です。

表1 筆者作成

イチゴとスイカの小売価格比率(5年毎)				
昭和40年(1965年)~令和4年(2022年)				
出典: 政府統計 検索: 2023.8.15				
元号年	西暦年	イチゴ1kg 単位: 円	スイカ1kg 単位: 円	比率: イチゴ ÷ スイカ
昭和40	1965	722	98	7.34
45	1970	738	335	2.20
50	1975	859	327	2.63
55	1980	969	356	2.72
60	1985	1290	331	3.90
平成2	1990	1440	385	3.74
7	1995	1600	394	4.06
12	2000	1630	328	4.97
17	2005	1550	332	4.67
22	2010	1360	351	3.87
27	2015	1687	389	4.34
令和2	2020	1970	429	4.59
4	2022	2105	500	4.21

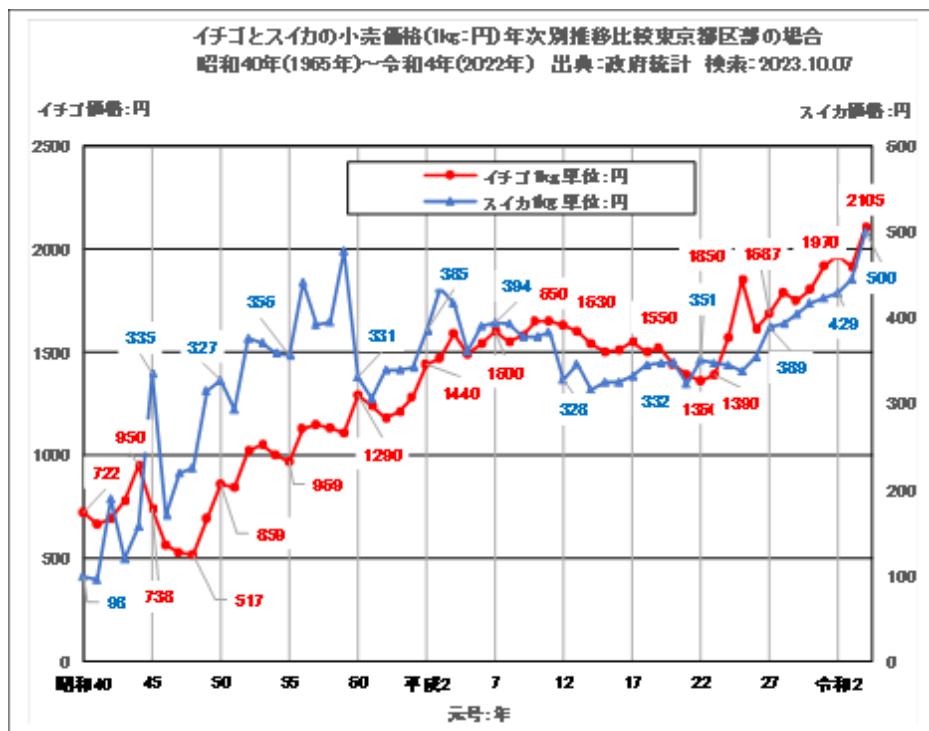


図3 筆者作成

図3から、イチゴとスイカの折れ線を上昇と下降の視点で捉えと、

- ・類似している

といえるのかもしれませんが。

すなわち、次のように区分される類似性です。

- ①両者の折れ線はともに昭和40年以降から昭和59年まで上昇傾向
- ②昭和59年を超えて平成5年までは急な下降と急な上昇で不安定
- ③平成5年を超えて平成22年まで緩やかな下降

④平成 22 年を超えて令和 4 年まで上昇傾向にある  
この類似性は、昭和 40 年以降の日本の経済状況を背景にして起きているの  
かもしれません。

#### 4 イチゴの国内収穫量及び出荷量年次別推移

最近、イチゴは冬にも店頭には並んでいるという。もはや季節野菜果物では  
なく、人口操作の訊く食べ物になっているのかもしれない。となると収穫  
集荷の数量も上昇しているのかもしれない。そこで次の図 3 です。

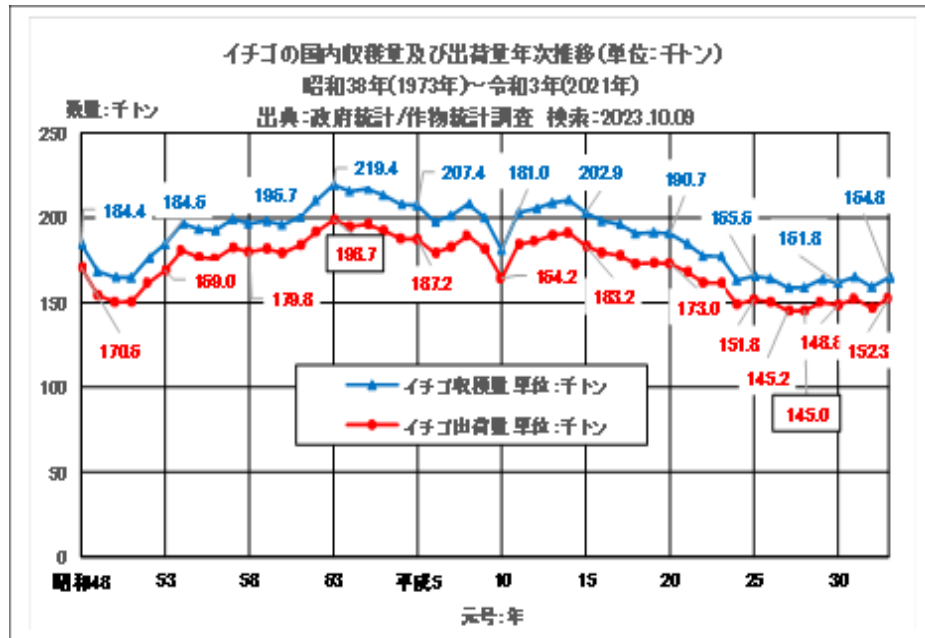


図 4 筆者作成

##### (1) 図 4 の出荷折れ線の特徴

図 4 から、イチゴの収穫量および出荷量の折れ線のカタチは類似している  
ことから、出荷量に目を向けてその特徴を見ると、

- ①最大値 198.7 千トン(昭和 63 年(1988 年))
- ②最小値 145.0 千トン(平成 28 年(2016 年))
- ③平成 15 年を超えて令和 3 年まで下降傾向

ここで、①②の出荷量差異をみると 50 年弱という長い年月で 53 千トンで  
あることをどのように捉えるかでしょう。

- ・極端な上昇や下降もなく安定している
- ・もっと上昇していてもよい
- ・上限が抑えられてはいないか
- ・平成 15 年を境に下降しているのはなぜか
- ・栽培方法の改革が反映されていないのでは？

等の意見が出るのでしょうか。

ずれにしても出荷量は上昇を続けるでもなく、逆に平成 15 年を超えると  
下降を繰り返しているのはイチゴ生産が人口的にコントロールされているの  
かもしれないという危惧でしょう。

次に③の下降傾向を数値化してみましょう

##### (2) 下降傾向の数値表現

図 4 の量対応画面を x-y 座標平面に代えるために次の㊦㊧の変換をしま

しょう。

- ⑦横軸を x 軸とし、昭和 48 年をスタートの数 1、単位の円を数 1 とする
- ⑧縦軸を y 軸とし、0 千トンスタートの数 0、単位の千トンを数 1 とする

続いて、図 4 の画面上で平成 15 年を超えて令和 3 年までの折れ線に近似する直線を求めましょう。平成 15 年(点 A)と平成 25 年(点 B)を通る直線が最適でしょう。そこで二点 A、B を x-y 座標平面上で捉えると A (31, 183.2)、B (41, 151.8) から、直線 AB の傾きは次のようになるでしょう。

$$\frac{151.8-183.2}{41-31} = -3.14$$

すなわち、当該期間では毎年 3.14 千トン(3140 トン)ずつ減少しているのです。上昇の機運はあるのでしょうか。

## 5 イチゴの消費量

イチゴの消費量に移りましょう。人々はいちごをどの程度に食べているのでしょうか。

政府統計で調べると家計調査になるでしょう。家計調査ではイチゴの消費量のデータは、「二人以上の世帯」になっていますから、一人当たりの消費量ではありません。

そこで一人当たりの消費量にするには「二人以上の世帯」の構成員数のデータが必要でしょう。こうした作業の結果は表 2 です。

元号:年	平成 29	30	令和元	2	3	4
西暦:年	2017	2018	2019	2020	2021	2022
二人以上世帯当該 3 年間平均消費数量全国平均(家計調査データ)	2294					
		2272				
			2294			
				2269		
当該年当該世帯消費量(平均使用)	2294	2283	2286.7	2278.3	2281.5	2269
二人以上世帯の構成員数の平均(家計調査データ)	2.98	2.98	2.96	2.95	2.92	2.90
一人当たりの消費量	769.8	766.1	772.5	772.3	781.3	782.4

表 2 から、

- ・直近の 6 年間ではイチゴの一人の年間消費量は 766~781 グラムということが言えるでしょう。

## 6 まとめ

——近未来のイチゴの需要と供給をめぐって

これまでみてきたように令和 5、6 年のイチゴの供給量は、令和 3 年の出荷量で推測が可能でしょう。

令和 3 年のイチゴの出荷量は、図 3 から、152.3 千トンです。そして図 3 の出荷量折線の右端を見ると上昇傾向を示していますから、

- ・令和4、5、6年は152.3千トンを下降しないとみなすことができるでしょう。
- 一方、イチゴの需要量ですが、表2のように直近の6年間では、
  - ・一人が消費する数量は、766～781グラム
 ですから、この範囲内を今後も続けるとみなすなら、人口1億2千6百万人とすると、
  - ・需要量は96.516～98.406千トン<sup>\*</sup>)
$$\begin{aligned} * ) \text{ 計算 : } & 766 \times 126 \times 10^6 = 96516 \times 10^6 = 96.516 \times 10^9 \\ & 781 \times 126 \times 10^6 = 98406 \times 10^6 = 98.406 \times 10^9 \end{aligned}$$
 となります。
 

この結果から、需要と供給のバランスは良好であるといえるでしょう。

以上 (2023.12.1・岡部)

※掲載文の無断転載を禁じます。  
 ☆ご意見、ご感想をお寄せ下さい。⇒Mail

#### 4. 世界の気になる情報と数値 ★

海外勤務が長かった田村一郎さんが、世界の気になる情報と数値、それらを扱った本、雑誌記事などを簡単にまとめ、生活数学月刊誌（メールマガジン）に紹介して下さることになりました。日本の弱点は世界の情報収集力が弱いことであり、日本のマスコミのスクリーンを経ていない生の世界情報（例：CIA WORLD FACTBOOK）などに、もっと関心を持っていただければとのことです。（岡部洋子）

#### 【 読書とネットサーフィンから—その70】

田村一郎（元石油会社勤務）

\*\*\*\*\*

\* 予告のテーマ：世界は今後どうなっていくのだろう？(48)

\* 予告の数値：75、80、17、21

\*\*\*\*\*

\* 気になる情報：—

(Wikipedia などより)

(1) ( ' 20.5.9 東京新聞) 対ナチス・ドイツ戦勝75周年記念演説でプーチンは、ソ連が約2700万人の犠牲を出してナチスに勝利し、欧州を解放したことは「我々の誇り、歴史だ」と強調した。しかし欧州は「ナチスとソ連がポーランドに侵攻、第二次世界大戦が始まった」と批判を強めており「欧州解放」史観を国是とするソ連の継承国ロシアは、歴史認識を巡り孤立を深めている。

(2) (Wikipedia) カティンの森事件：ソ連は1939年にポーランドに侵攻、旧ポーランド東部地域を侵略・併合し、2.2～2.5万人のポーランド軍将校、国境警備隊員、警官、一般官吏、聖職者などを捕虜としてソ連領内に連行、1940年春、虐殺した。ソ連内務人民委員部(NKVD)長官ベリヤが射殺を提案し、スターリンと政治局の決定で実行された。当初は、ナチスの犯行とされたが、銃弾等の多数の物証により、1990年4月、ソ連が自国の犯行と認め、ポーランド政府に謝罪した



(3) ('23.2.3 BBC) プーチンは、第二次大戦で旧ソ連がナチス・ドイツに勝利した「スターリングラード攻防戦」の勝利80周年式典で、ウクライナ侵攻をこの攻防戦になぞらえ、ロシアはまたしてもドイツ戦車の脅威に直面していると述べた。プーチンは侵攻開始当初から、ロシアによるウクライナ侵攻について「特別軍事作戦」は、ウクライナ政府を率いるナショナリストや、ナチスとの戦いだとする虚偽の主張を続けている。

"Puchin: 80years on, we are facing German tanks again".

\*\*\*\*\*

\* 今月ご紹介の書籍 :-

T. クランシー & S. ピチュニツク共著「暗黒地帯 Dark Zone」(2017)(扶桑社 2021) :-

(筆者) 2017年発刊の本書(T. クランシー: "オブセンター・シリーズ")に、史実がかなり高い割合で反映・描写されており、'21年2月のプーチン・ロシアのウクライナ侵攻を予期している。

オブ・センター: その存在を知る者が極めて少ない「軍事・諜報・政治・心理学などの各分野の専門家を集め、少人数の直接行動部隊(ストライカー・チーム)を持つ国家危機管理の米国特殊機関」。T. クランシーの創作。

粗筋: -

(1) 2014年、クリミア半島の要衝セヴァストポリが、クリミア自治共和国とともに主権宣言し、ロシアに編入された。ウクライナも欧米諸国もこれを認めていないが、ロシアは当地を実効支配している。ロシア系移民が多いウクライナ東部でもウクライナ軍と分離独立派の衝突が相次ぐ。

(2) 2020年5月9日、プーチン大統領がロシア連邦議会で行った対ナチス・ドイツ戦勝75周年記念演説 :

①「NATOは攻撃的な発言と我々の国境付近での行動を強めている。このような状況の下で我々は、我が国の戦闘即応性を強化することに、格別の注意を払わねばならない」と述べ、更に、

②「抵抗を受けずにウクライナに侵入したい。国境近くの我が国の基地の我々の部隊の軍事的存在が極めて優勢に見られれば、戦う必要がなくなるだろう。我々には突入できるような戦車・兵員・砲兵がある。未来の戦争は心理戦だ。巧みな配置、24時間体制の活動、兵士の士気が極めて高いのを見せつけ、わが軍基地が濃い影を落とすようにする。完全なダーク・ゾーン(暗黒地帯)を創り上げ、誰であろうと我々に挑むのを恐れるように仕向ける。そうしておいてから、何の支障もなく進撃する。敵が怯えて暮らせば、我々のプレゼンスそのものが敵を降伏させる。戦闘のない戦争、損耗のない征服だ」。

③「世評と威圧で勝利を収めるのだ」。

(3) ニューヨーク 6月2日: 国連ウクライナ代表部所属の諜報員ガリーナ・ペトレンコが元駐ウクライナ米大使のダグラス・フラナリーを訪ね言った。

①「ロシア連邦陸軍内部に情報源が必要。六個機甲大隊が新編成の先鋒を務める準備を行っているという噂が出ているさなかに、クレムリンにいた私たちの潜入工作員が行方不明になった。有事の際の作戦策定のため、ウクラ

イナ軍(ZSU)がその戦車部隊の情報と展開についての情報を求めている」。

フラナリー「君はここでロシア人と関係しているという噂がある。情報を買っているのか？」。

ガリーナ「私達は彼らから情報を買う。彼らは私達から買う」。

②女性職員はフラナリーと接触した直後に殺される。身の危険を感じたフラナリー元大使から連絡があり、オプ・センターではこの殺人事件に関する本格的調査に乗り出した。折しも、ロシア軍基地攻撃をシミュレートした仮想現実(VR)プログラムを、オプ・センターの対電子戦対策専門家グループが発見した。

③続いて、もう一人のウクライナ職員がニューヨーク市内で殺され、殺しの手口から、女性職員殺害と同一犯によるものと断定された。

オプ・センターは、フラナリーを保護するために特殊部隊チーム・リーダーのヴォルナー少佐とドーソン作戦部長をニューヨークに派遣し、ニューヨーク市警にも警護を依頼した。その直後、フラナリーは凄腕の殺し屋チェルカーソフとその相棒オルガ・ウッドワ(Ms.)に襲われたが、ヴォルナーとドーソンは、きわどいところでフラナリーを救い、チェルカーソフを射殺、ウッドワを捕えた。刺客は何度も政治的暗殺を行ってきたロシア人だと判明した。

(4)ロシア人刺客によるウクライナ職員二人の暗殺、国境に近い基地での露軍集結、露軍基地をターゲットとするシミュレーション... 様々な情報が、ウクライナとロシアの対立が激化しかねない状況であることを示していた。だが、ウクライナ政府や軍などの正規の経路からは、それらしい活動の情報が全く入ってこない。そのため、何らかの離反分子によるものかもしれないと、オプ・センターでは推理する。ITが飛躍的に進歩した今も、HUMINT＝人間がじかに収集する情報＝は極めて重要だ。

オプ・センターのウィリアムズ長官は、現地で偵察と情報収集を行うために、特殊部隊チーム(ISOC)派遣を決定した。

(5)ロシアでは西部軍管区司令官イェルショーフ大將が、プーチン直々の口頭命令で、機甲部隊が集結しているスツジャ基地で指揮を執るよう命じられた。オプ・センターの特殊部隊チームは、ロシア軍の国境付近の戦力増強と、ウクライナ人勢力の活動のさなかで、情報不足のまま臨機応変に行動しなければならなかった。任務が拡張してただの偵察ではない作戦に変わるのではないかと、ヴォルナー少佐は、危惧を抱く。しかし、彼のチーム以外に、この危機を收拾する手段はなかった。

(6)ウィリアムズ長官「露軍の機動が増加している。ウクライナの離反勢力の精密軍事作戦が準備されている。NATOは戦時態度。露の攻撃に備え、ポーランドに資材と装備を集積している。

(7)2014年対露戦車戦勝利で、ウクライナの英雄となった(狐こと)タラス・クリモヴィッチ陸軍少将(戦闘後、3年間消息を絶っていた)が、廃棄されたことになっている400輛以上の戦車の墓場、屑鉄置き場に見える工場跡地で、50輛余りを動作可能に改造した。6月4日、軍事パレードする。この機に、ウクライナ離反特殊部隊(指揮官ヨシブ・ロマネンコ陸軍少佐)がスツジャ基地を襲い、プーチンに恥をかかず計画。

(8) ヴォルナー(オブセンター統合特殊作戦コマンド・チーム=JSOC)指揮官が、ロジャー・マコード・オブセンター情報部長に「偵察して状況の評価する計画だった。その計画を捨て、露国境に向かっているかもしれないチームの一員かもしれない男を狩ることになる。ウクライナ攻撃チームとおぼしき連中を阻止するため、北へ飛ぶ。ウクライナの離反部隊が露へ向かうようなら、オブの ISOC がそれを阻止することを願おう。

(9) 6月4日、ウクライナ・スームィ。 地元ラジオ局：クリモーヴィッチの50 輛余の戦車部隊のパレードを伝える。スツジャ基地で、イェルショーフが、ウクライナ TV 局の生中継を見る。ティモシェンコ露国防相から Tel: 「見たか?」。「見ました」。イェルショーフ「私は国境に行かねばなりません。プーチンに命じられた機動演習を実行することは、私の権限の範囲内です」。

(10) ウクライナ・ユナミフカ 6月4日。ロマネンコ：林の中で、ピクニック・テーブルに焼夷手榴弾で着火。大火事に。ウクライナ・チーム、オブセンター・チームとも露スツジャ基地に向かう。ウクライナ・チームが先行。露機動部隊を南におびき寄せ、地元ウクライナ官憲を火事でおびき寄せる。南西の火事と南の戦車部隊に注意を向けさせ、その間に、ウクライナ特殊部隊が東に進んで国境を越え、プーチンに痛打を浴びせる。クリモーヴィッチの陽動作戦に引っ掛かり、スツジャが攻撃されそうになる。プーチンはイェルショーフを解任。ティモシェンコ大臣「スツジャに戻れ!」。オブ・センター：チームがやった！ ウクライナ・チームはロマネンコ以外は無事。フラナリーがウクライナ特殊部隊を説得。ロマネンコは爆死。身許を確かめる術なし。

(11) 露暗殺者チェルカーソフの後任、ゲオルギー・グラスコフ、NY 到着。市警テロ対策局長アイリーン・ヤングが迎える。「オルガ・ウッドワがあなたのこと喋ったのよ。私の街に足を踏み入れたら命はないものと思って」

(終)

\*\*\*\*\*

\* 予告のテーマ：世界は今後どうなっていくのだろう？(49)

\* 予告の数値：なし。

\*\*\*\*\*

◇フィクションと現実が混在するような小説です。このような小説が発禁にならないで公表される自由のある国は独裁者を生むことはないでしょう。こんなことを思う小説の在り方も提示されていますね。田村さんは話題の小説を探す天才ですね!! (岡部進)

☆ご意見、ご感想をお寄せ下さい。⇒Mail



絵の素材：秋明菊 (2023. 10. 27 撮影/前田洋子)

## 5. イスラエルの旅（2） ★

（財）日本防火防災協会監事 黒沢 宥

- 1 イスラエルへの関心    2 パレスチナ問題    3 大韓航空でテルアビブへ  
（以上、前号）

### 4 最初の異文化を感じる

この日宿泊するホテルは、「テルアビブ・タル ホテル」（Tel Aviv Tal Hotel）である。部屋は612号室。



（テルアビブ・タル ホテルの入口）

ホテルに到着し、添乗員が各メンバーの部屋割りを決め、皆が各部屋に赴くためエレベーターに乗ったところで、一つの事件が起きた。エレベーターに乗り、降りる階の「停止ボタン」を押し、「閉じる」のボタンを押すと、エレベーターは動き出したが、不思議なことに「停止ボタン」で指定していない2階でエレベーターが停止した。操作盤の近くにいた人が慌てて「閉じる」ボタンを押し、エレベーターを動かすと、次の3階でもエレベーターが停止した。こうしたことが、4階、5階と続いたところでメンバーの一人が「今日はシャバットの日（安息日）である」と言い出し、その説明を聞いて皆が納得した。イスラエル入国の第一日目に、日本には無いこうした異文化に遭遇したわけで、これからイスラエル滞在中に何が起きるか、興味津々というところであった。

なお、「安息日」とは、旧約聖書の「創世記」において神が天地創造の7日目に休息を取ったことに由来するもので、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教において、その日には何もしてはならない日と定められている。週の7日目とされており、ユダヤ教では金曜日の日没から土曜日の日没までの間である。安息日は聖なる日であり、戒律としていかなる労働もしてはならないことが求められている。この労働のなかには火をつけることも含まれていて、

電気製品のスイッチ点滅操作をすることも労働の一部と考えられている。

日本のマスコミではどこも伝えていなかった事実であるが、今回ハマスがイスラエルを攻撃した10月7日は、ユダヤ教では祈るほか何もしてはならないこととされている安息日であった。このことと並んで（後日あとの項目で述べることとなるが）、イスラエル国防軍、そしてイスラエル国民全体の心構えの中に染み透っている「ノーモア・マサダ」により、今回の紛争がイスラエルにとっても、またイスラム諸国にとっても、歴史的な解決をせざるを得ない結果に終わることが予想される。

## 5 カイサリアの遺跡

イスラエル最初の日の朝食は、ツアー一同全員でホテルのレストランで食べる。

ここでまたまた我々夫婦にとって一つの事件が起きた。朝食の席に着いて、家内と二人早速、料理に手を付けたところ、我々夫婦を除く他のメンバー全員が食前のお祈りを捧げているのである。無宗教の我々夫婦はこうした習慣がなかったが、以後、このツアーがクリスチャンの旅であることを肝に銘じ、気を付けることにした。



（ヘロデ王が造ったと言われる導水橋）

専用バスでホテルを出発、50キロ北のカイサリアに向かう。

カイサリアは紀元前2世紀、フェニキア人の港町として誕生した。その後ローマが進出し、総督府が置かれ、地中海からの入口として発展した。

カイサリアにはローマ風の遺跡が多い。眼を見張るのは、ヘロデ王が造ったと言われる円形劇場である。座席が半円形に海に向かって設えてあり、その直径は170メートル、最高部の高さは30メートル、4000人を収容できる大きさである。現在も夏季にコンサート等に利用されているという。

更に北に進むと、これもヘロデ王が造ったと言われる導水橋が残っている。20キロ離れたカルメル山から流れ出た水が源となっている。

円形劇場や導水橋を建造したヘロデ王は、ユダヤ人ではなく、その周辺で活動していたイドマヤ人であった。彼は、砂漠の民の出身でありながら、国際情勢に富み、目先のきいた有能な人物であったようで、当時の支配者ロー

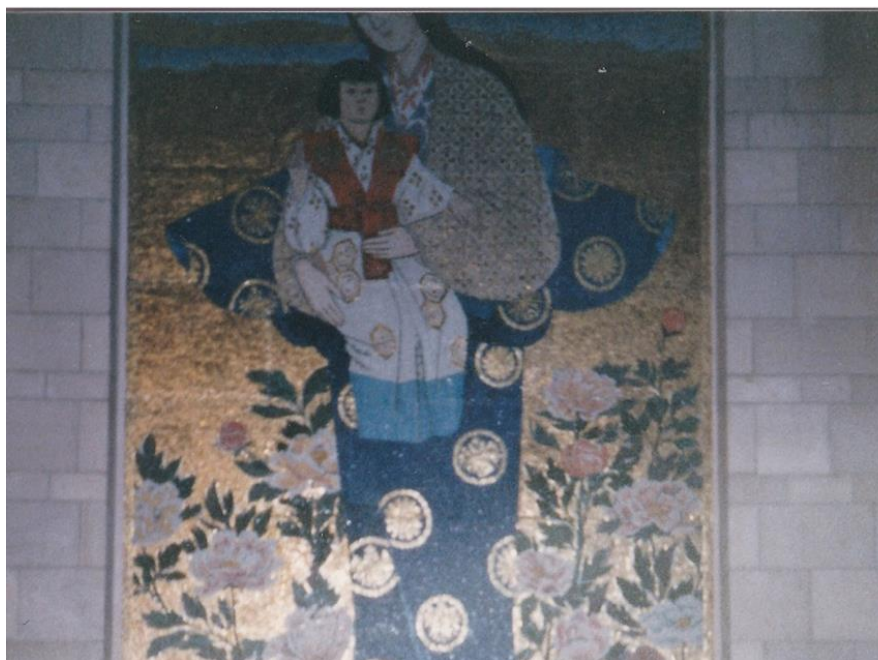
マの覚えが目出度く、ローマの徴税官に任ぜられていた。また、絹の道ならぬ香料と香辛料の道の利権を握り、莫大な財を成したとされている。その一方で、ユダヤ人に対しては大いなるプレゼントとして神殿やマサダの砦、それから現在でもユダヤ教徒の最も重要な施設である「嘆きの壁」を築いたと言われている。

## 6 受胎告知教会

次に、カルメル山を遠くに眺めながら内陸方向に向かい、ナザレへ。

ナザレは、イスラエル最大のアラブ人の街であるが、イエス・キリストの故郷でもある。イエスは、大工ヨセフを父に、マリアを母にここで生まれた。マリアは、天使ガブリエルから精霊により身ごもったと伝えられる。これが有名な受胎告知である。

ナザレに受胎告知教会（Church of the Annunciation）がある。中東最大のキリスト教会であるが、百合を模った尖塔が美しい。聖堂の中の2階には、世界の国々から贈られて来た聖母子の絵が飾られている。日本人画家、長谷川路可の「華の聖母子」も飾られていた。着物姿のマリアであるのがうれしい。



（受胎告知教会、長谷川路可の「華の聖母子」）

ナザレの受胎告知教会を見学した後、カナの婚礼教会に立ち寄る。この教会は、イエスが最初の奇跡を行った場所として建てられた教会である。イエスは、母マリアの申しつけに従い6個の甕に入った水をワインに変えたが、これがイエスの行った最初の奇跡である。教会前の土産物屋に記念のワインが売っていたが、味見したところ非常に甘みの強いワインであったので、買うのはやめた。

また、この教会では観光で訪れた夫婦が既婚であっても記念に再婚式を挙げるという話を聞き、私たち夫婦も「これからも一生添い遂げましょう」という口約束だけの再婚式を行った。

その後、イスラエル北部のガリラヤ湖方面に向かう。ガリラヤ湖は、ヘルモン山から湧き出る豊富な地下水が流れ込んでいる湖である。この地域は、イスラエルで最も起伏に富み、緑の多いところである。ガリラヤの「ガル」は

ヘブライ語で波という意味、ガリラヤは「波打つ地」という意味である。

## 7 キブツに泊まる

ガリラヤ湖畔のノフゲノサレ・ ゲストウス (Nof Ginosar Guest House) に着く。この日の夜、我々のツアーが泊まるホテルである。ホテルといっても、キブツ (Kibbutz Ginosar) が経営している宿泊施設である。

ここに一人の日本人が待っていた。東京新宿区の私の自宅近くにある海城高校の卒業生であるという。彼はキブツに長らく住んでいた経験があり、キブツのこと、ユダヤ人のことなど詳しく説明してくれた。

キブツはイスラエル全域に散らばって存在し、全体で250程度あるとのこと。基本的には、農業共同体であるが、多くは何らかの製造業も営んでいる。すべての財産がキブツの所有で、メンバーは無給で仕事をする代わりに、住居、生活必需品、教育費、医療費、娯楽費などすべてが無料である。

また、構成員は完全平等で、子供の養育は集団の責任とされている。まさしく原始共産社会である。ただし、近時の調査によれば、キブツの多くが経営危機に陥り、キブツ構成員がイスラエル人口の3%以下にまで落ち込んでいるとのことであった。

この日本人が我々ツアーのメンバーに話をした中で、帰国後の今でも印象に残っているのは、だいぶ古い話ではあるが、日本の総理大臣村山富市がイスラエルを訪問した際、紛争が絶えない中東問題に言及し、イスラエルの首相に「話し合いで解決すべきである」との発言をしたとのことであった。何千年もの間、争っている問題、今現在起きているイスラエルとイスラム組織ハマスの争いもそうであるが、これを話し合いで解決すべきであると簡単に言う日本の総理大臣の国際感覚に、いたたまれない恥ずかしさを感じたとのことであった。

日本人の間では、「戦争は駄目、話し合いで解決すべきである」という議論が相当の見識のある有識者の間でも論じられているが、ロシアによるウクライナ侵攻や中国や北朝鮮のアグレッシブな姿勢に遭遇した時、そして今現在起りつつあるイスラエルーハマスの紛争に喫緊に解決策を見出さなければならぬ時、簡単に話し合いで解決することが出来ない事態も起こり得るわけであり、言葉は悪いが話し合い以上のことが必要とされることもあるのである。なお、キブツの宿泊施設は、質素であるが、普通のホテルと変わるところがない。泊まるだけが目的であれば、商業的なホテルより良いのかもしれない。

(画像：撮影・本人)

(続)

◇想像で現在のことに口を出すのは失礼かも——という事を考えると、黒沢さんは素晴らしい行動力のある方です。現地主義なのかもしれませんね。とにかく現地を実際に訪れることをから見えてくるものがあるのでしょうか。 (岡部進)

## 6. 著書及び新刊本紹介 ★

(税込表示価格：税10%)

【最新刊】 (続・生活数学シリーズNo.5) ISBN978-4-9905889-6-0(四六判 233頁 2,200円)

★＝「数学史から十話」 (2022年11月21日刊行)



【続・生活数学シリーズNo.1~4】

●＝「明日への生活数学」(2021年3月1日刊行)

●＝「江戸時代の文化思想として 関孝和の「三部抄」を読む」

●＝「数値文化論」 ●＝茶の間に対数目盛 3.11 震災に学ぶ

【その他の著書】

※「生活数学シリーズ本(No.1~No.10)」のなかから；●＝「洋算」摂取の時代を見つめる

## 7. 今日のワンポイント ★

### 【 キュビズム(cubism)とは 】

キュビズム(cubism)とは、ご存じですか。いま上野駅に近い西洋美術館で開催中のテーマ(キュビズム展/美の革命 The cubist revolution)に関連している美術用語です。美術フアンの人には馴染みの用語でしょう。

11月末の昼下がりの暖かい日差しを浴びながら会場に出かけました。入場して最初に出合ったのはセザンヌの絵画でした。キュビズムの先駆者であるということで入り口に置かれたのでしょうか。けれども、cube(立方体)に全く反応しない自分のがっかりしたのです。そのうち、ピカソとブラックの絵画に出合い合点しました。キュビズムとは、幾何学図形を絵画手法に取り込む運動であるらしいと気づいたのです。二人の巨匠の絵画に出会って以降に見る絵画には曲線でなく束ねた平行直線や直線図形がキャンバスに持ち込まれていました。

このとき気になったのは制作年です。受付で渡されたパンフレットを見ると、どの作品も1910~20年代前後なのです。この年代で幾何といえば筆者の専門領域ですからピンとききました。当時、世界的な数学教育改造運動の最盛期なので、この運動が今見ている絵画にかさなりました。ギリシャ以来の「公理・定理・証明の数学」を学問の典型としてどっしりと中等教育に居続ける雰囲気を入れ替えて、使える数学を目指すという運動の風はヨーロッパに行き渡っていましたから、この運動にキュビズムも影響されたのではないかと自分勝手に判断して、しばらく絵画鑑賞に熱中しました。

見ているうちに実在から抽象された図形の立体構成が筆者の想像力を打ち砕くように越えていきました。絵画の想像世界は永遠なのでしょう。

一方、世界的な数学教育改造運動は融合という手法が生まれ幾何に代数を取り入れるなどデカルト手法の解析幾何が発展して、日々の生活をささえて今日に至っています。(2023.12.1.岡部進)

## 8. 編集後記 ★

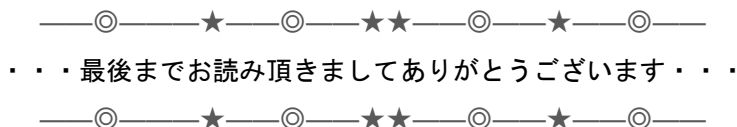
美の革命展 熱き時代に 想い馳せて・・・於：西洋美術館「キュビズム 美の革命展」

今年の夏は記憶に残る猛暑でした。ただ、畑の作物は虫もつかず、秋の収穫時はどれもおおむね出来が良く、猛暑に感謝したくなります。物事は良い事と悪いこととが表裏一体、もしくは喜怒哀楽の言葉通りに順繰りで常にどちらにも存在するという事をあらためて感じます。



さて、当セッション講師の岡部進は、先月11月21日で88歳になりました。お祝い不要と言っていた本人でしたが、常連参加者の皆さんのお陰で、今月12月26日のセッションは、先々月からの予告案内の通り、特別企画として岡部進の米寿を祝う会をとり行う事となりました。感謝でいっぱいです。3周年記念イベントを開催したのが11年前の2012年。11年経過後の現在、確かに年は取りましたが、常連さんと一緒にみんなで年をとったのが幸せなところで、全員で元気なところをお見せ出来たらと思っております。

また会える 励みにしつつ 時を待つ  
ご参加を考え中で申込みがまだの方、早めのお申込みにご協力ください。心よりお待ち申し上げます。(岡部(前田)洋子)



■このメールマガジンは、主に岡部進及びヨーコインターナショナル(岡部(前田)洋子)に何らかのご縁があって名刺交換等をさせて頂きました方々、あるいは購読を希望され申込みをされた方々に、お送りしています。

■配信停止やメールアドレス変更の連絡は⇒Mail ■ご意見、感想文、岡部進へのメッセージなどは⇒Mail ■セッションや本に関する情報を別途不定期で発信する場合があります。ご了承ください。 ■掲載文の無断転載を禁じます。



SSN 暮らしに役立つ 生活数学ネットワーク 代表 岡部進、アンバサダー各位

ヨーコインターナショナル 岡部洋子



### ■12/26の特別企画『生活数学・岡部進の米寿(88歳)を寿(ことほ)ぐ』

参加します。

ご氏名：

電話番号：

ご同伴者：

(あれば) コメント：

※参加費：8000円

(振込みにご協力ください。お申込み後、振込先を案内状と共にお知らせいたします)

※開催時間：13:00~15:30(受付12:30~)

※会場：グランドアーク半蔵門 2階 曙の間 千代田区隼町1-1

最寄り駅：地下鉄半蔵門線半蔵門駅

6番出口(エスカレーター完備)より徒歩2分

※食事：昼食として、和洋折衷コース料理

◎食事の後、第150回目になるセッションの雰囲気は少々味わってもらい、そのあとは、講師の岡部進が11月21日で88歳になった事を祝しつつ、常連参加者に喜寿傘寿もいるという生活数学セッション150回開催も称えつつ、ご参加下さる方々全員で、和気あいあい、いつものように幅広い議論を交わし大いに語り合しましょう。(以上)